

私のすすめるこの1冊

村上 登司文（附属図書館長・教育学科 教授）

『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』

速水融（著）

歴史は繰り返し、感染症の世界的流行も繰り返します。中国湖北省の武漢で新型コロナウイルス感染症が流行し、医療現場で患者があふれ治療できない様子が伝えられました。その情景はイタリアとスペインでも起こり、やがていくつもの国で見られるようになりました。

本書は、100年前に世界的に大流行したスペイン風邪（1918～1920年）について、当時の状況を日本各地で発行された30紙の新聞記事を用いて、全国の様子を丹念に描写しています。スペイン風邪は、1918年に始まり、日本では前後2回の流行期があり大きな被害をもたらしました。

流行が起こったのは大正時代であり、その時の光学顕微鏡では細菌しか見ることはできず、スペイン風邪の病原体であるウイルスを発見することはできませんでした。病気に対する有効な防御法はありませんでしたが、マスクとうがいとすでに奨励されていました。

当時の多くの人々が、神戸須磨の近くにあるやくよけがみ厄除神を祀る八幡神社に、護符（お守り）を買いに出かけた、と新聞記事にあります。「善男善女で…非常な賑いを呈し兵電（兵庫電鉄）は朝の程からすしづ鮎詰めの客を乗せて月見山停車場に美しい女も職工さんも爺さんも婆さんもじつぱひとから十把一束げで吐き出す」（1920.1.19付）と伝えました。八幡神社では護符が飛ぶように売れた、といます。今でいえば、新型コロナウイルス感染者のクラスターが、護符を買う参拝者を乗せた満員電車が行き来するたびに発生していた、こととなります。

有効な対症方法がないまま、京都でもスペイン風邪が蔓延し、患者や死者が増えていきます。「京都日出新聞」

（1918.10.19付）の記事には、東洋紡績会社伏見工場の有熱患者や、工兵第16大隊兵士の患者が多数発生していることを記します。1920年になっても、「流感がもたらす惨禍伏見署管内の状況 一家数名の罹病者多し」の記事（1920.1.27付）は、紀伊郡向島村（現伏見区向島町）の大工の夫婦が続けて亡くなり15歳の娘一人残され、と記します。京都府内だけで、41万人の患者数で、死者は1万1千人を出す惨状となりました（参考：『流行性感冒：「スペイン風邪」大流行の記録』東洋文庫、2008：原典1922）。

それから100年経った今、インフルエンザのウイルス学は格段に進歩し、病気によっては、ワクチンの普及や対症方法の備えもあります。しかし、今回は新型ゆえに従来の対応方法は不全であり、医療崩壊を起こす危険があります。当時の日本の罹患状況を知ることは、今回も途上国を中心にそれに近い被害状況が現出する可能性があり、その惨禍の甚大さを予測させます。著者の速水融は、スペイン風邪に晒された人々の悲鳴を聞き、状況を知ってほしいと述べます。感染症の世界的流行は繰り返しますが、人々の英知と協力により被害を最小限にすべきことを、当時の状況を描写するこの本は示唆しています。

臨時休館（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため：4/21-当面の間）

京都教育大学附属図書館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記の期間、臨時に休館いたします。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

4月21日（火）～当面の間

開館再開日については、図書館 Web ページ等にてお知らせします。

臨時休館に伴い、春季休暇貸出の返却期限日を、4月13日（月）から6月15日（月）に変更します。

また、返却期限日が5月13日（水）以降の資料も6月15日（月）に変更します。

カウンターに飛沫感染対策防止用シートを設置しています



臨時休館が決まる直前4月17日よりカウンターに飛沫感染対策防止用シートと臨時机を設置しました。開館再開しましたらご不便をおかけいたしますが、間隔を十分空ける対応のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

臨時休館中のサービスについて

臨時休館が、長期化することにより、利用者の皆様の学習・教育・研究に影響が出ており、一部、サービスに関わるご要望もいただいております。新型コロナウイルスに関する情報により、附属図書館の対応も日々変化しております。今後の変更も一斉メールやホームページ等を通じて、最新の情報をお届けいたしますので、定期的にご確認いただけますと幸いです。よろしく願いいたします。



【新型コロナウイルス感染症対策】 自宅学習、在宅研究・勤務で利用できるオンラインサービスのご案内

URL:<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/information/2020/covid-19-e-resource.html>

新型コロナウイルス感染症対策により図書館は臨時休館しております。（4/21-当面の間）
あわせて、新型コロナウイルス感染症対策のため出版社各社より特別の支援が拡大しております。
休館中でも利用可能なオンラインサービスについて随時まとめてご案内いたします。
自宅学習、在宅研究・勤務にご利用ください。（2020.4.30現在）

ネットアドバンス「ジャパンレッジ Lib」 期間限定無償アクセスアップ同時アクセス 50

（2020年4月4日～2020年5月31日）
（附属図書館ホームページ：「学外からデータベースを利用するには」よりアクセスください。）
URL:<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/guide/Shibboleth.html>

朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」

学外アクセス（2020年4月22日～2020年5月31日）
（附属図書館ホームページ：「聞蔵Ⅱビジュアル学外アクセス用臨時 ID のご案内」（要学内 ID）
URL:http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/gakunai/e-journal/kikuzo_rinzi.html

皓星社「雑誌記事索引データベースざっさくプラス」
無償公開（2020年4月1日～5月31日）

お知らせ
URL:<https://zassaku-plus.com/info/news#1>
ざっさくプラス
URL:<https://zassaku-plus.com/>

※CiNii、Maruzen eBook Library、EBSCO host および EDS (EBSCO Discovery Service)、Science Direct につきましては引き続き学外から Shibboleth ログインでデータベースを利用できます。（附属図書館ホームページ：「学外からデータベースを利用するには」よりアクセスください。）

※その他情報提供
新型コロナウイルス感染症に関する情報提供（京都府立図書館）

<https://www.library.pref.kyoto.jp/?p=21767>
COVID-19 支援関連まとめ記事（紀伊國屋書店）
<https://mirai.kinokuniya.co.jp/tag/covid-19/>

英語学習には多読がおすすめ

～多読コーナー設置しました～

北館 2F グローバルスクエアに多読コーナーを設置しました。英語の本をたくさん読むことで英語力を上達させることができる英語多読プログラム M-Reader を使った授業に対応しています。Web サイト上のシステムを用いて学修レベル別のクイズを受けることができます。



講習会について

レポート・論文資料収集法講習会
データベース検索入門
資料収集に新聞や辞書、百科事典、電子書籍などを使う人はぜひお越しください。
Web 上で検索できる図書館で契約しているデータベースの利用方法をレクチャーします！
【日時】5月中は休館のため、延期
【集合場所】附属図書館カウンター
【申込方法】希望日時、所属、氏名を明記の上
library@kyokyo-u.ac.jp まで

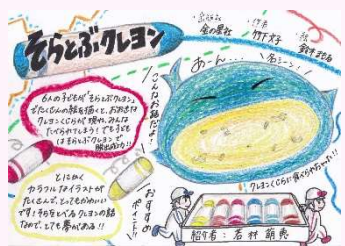
詳細は、ホームページやポスターで！社会人大学院生の皆様など異なる時間帯でご希望の方はご相談ください。



児童書コーナー（南館 1 階）



学生による絵本のよみかかせ
＜5月、おやすみです＞



今月の絵本カード （学生作）

『そらとぶクレヨン』
文：竹下文子
絵：鈴木まもる
出版社：金の星社

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！リクエストや投票にどんどん参加してください！

5月はおやすみです。リクエストは随時受付中です。

※結果によっては購入できないこともあります。
※学習研究目的のものは原則として購入しています。

新指導要領対応教科書・ 映画の DVD 入りました

昨年度末から年度初めにかけて、新指導要領対応教科書、新しい映画の DVD 『君の名は。』『The Avengers : Marvel's』が入りました。どんどご利用ください。



学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？
授業が開始しましたら今年度も再開予定です。



企画展示室（北館 1 階）

＜報告＞2月14日（金）からはじまった「第4回たのしもう日本画展（授業：日本画研究受講生）」が4月10日（金）で終了しました。みなさんも発表の場としてどんどん活用してください。



教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品（4・5月）

「貝化石」

展示場所：図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **武島 良成** (社会科学科 准教授)

河辺正三(ビルマ方面軍司令官)の「前史」について

武島 良成

京都教育大学紀要. 2019, No.135, pp.17-32

私は、今年の年初に、2冊目の単著となる『「大東亜共栄圏」の「独立」ビルマ』(ミネルヴァ書房)を上梓しました。同書の第1部では、日本が太平洋戦争の時にビルマに置いたバ・モオ政府が、傀儡政権になるどころか、日本の支配に猛烈に抵抗をしたことを示しました。抵抗に直面した日本(軍)も、随時妥協することになりました。これらの分析を受け、今後の検討課題として、①このような抵抗が、より広がっていた可能性を探る、②このような日本のアジアとの関わり方が、日中戦争までの方策とどう繋がるのかを検証する、ことが考えられます。

今回の論文は、上記の課題②に対応するものです。ビルマ方面軍司令官として、譲歩的な政策の導入・定着に尽力した河辺正三(当時は中将)が、元々どのような政策論を持っていたのかを分析しました。考究した限り、河辺はアジアに傀儡国家をつくっていく発想は弱かったようです。その河辺が、バ・モオ政府に妥協的な政策をとったことは、自然なこととして捉えられます。

このような、日中戦争までと太平洋戦争以後の方策との関係については、多くの人が納得するような結論は、なかなか得られていません。近年では、アジア主義という理念に注目して、この課題を解き明かそうとする動きもあります。また、伏見宮系皇族に着目したり、現状破壊というキーワードでこの時代に斬り込もうとする向きもあります。

今回の論文は、以上の研究動向を睨みながらも、私の力量でやれることをやってみたものです。顧みるに、東条英機、武藤章などのキーパーソンが、元々どのようなアジア観を持ち、アジアとどのように関わろうとしていたのかという研究は、あまり見かけません。南方軍の寺内寿一についても同様です。今後、彼らの個人史を糸口にして、「太平洋戦争への道」を探るような作業も、行う必要があると思います。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 135号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2020年5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード→)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.236 (2020年5月号)

発行日:2020年5月11日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION